

くすっ子



鴻巣市立屈巣小学校
学校だより
令和3年 9月30日

《花いっぱい 夢いっぱい 笑顔いっぱい 屈巣小》

No. 12

花をさかせる学校・夢をはぐくむ学校・笑顔あふれる学校

目は口ほどにもの言う



校長 ^す ^わ ^{けん}
 諏 訪 健

緊急事態宣言中は、登校直後に児童の健康状態の確認をするために、職員の勤務開始時間を通常よりも早め、対応してまいりました。私も昇降口で毎朝児童を迎え、カードの内容を確認したり、うっかり手指消毒を忘れてしまう児童へ声をかけたりしてきました。学校からの依頼事項について、ご家庭のご理解とご協力をいただいている様子が、児童の様子を通じてわかる毎朝でした。10月4日（月）からは、1学期と同様の体制に戻しての健康観察といたしますが、ご家庭でのカードへの記入について、お手数をおかけいたしますがよろしくお願いたします。また、児童本人やご家族様に風邪症状があるとき、登校を控えていただくことについても、引き続きご協力をお願いいたします。

さて、今回は、「あいさつ」について、綴りたいと思います。

私は、人とあいさつしながら、相手の顔の表情をつかむようにしています。しかし、感染症予防のマスクをしていることで、口や鼻が布で覆われているため、顔の表情が分かりにくい状況が、長く続いています。また、感染症予防のため、大きな声を出すことを控えさせたり、人との距離に気を付けるように話したりしているため、声の調子だけで相手の状態をつかむことも難しいと感じています。そこで、注目したのが、目（ひとみ）です。毎朝児童とあいさつをしていますが、私は、目を見てその子の状態を見取るようにしています。声は小さくても、目を合わせてあいさつをすることができる児童は、安心していられます。声は大きいですが、目が泳いでしまう児童は、ちょっと気がかりになります。「目は口ほどにもの言う」ということわざがありますが、改めて「本当だなあ」と、この一か月間で感じました。



本校では、気持ちのよいあいさつができる児童を育成することを目標の一つにしています。マスクをしていても、目でも挨拶できる「くすっ子」に育ててほしいと願っています。「よいあいさつ」の条件は、いくつかありますが、目を見てあいさつできることは、児童が将来社会に出て、必ず役に立つと思っています。

ご家庭におかれましても、「目を見てあいさつや会話をしているかどうか」と振り返っていただければと思います。目を見て話す気恥ずかしさが初めはあるかもしれませんが、しかし、目を見て話せることは、お互いの心の安定につながると感じています。忙しい中での毎日の生活を送られていて、常にとはいかないと思いますが、大切にしたいことと思っております。

10月は、秋晴れの日が多くなり、気持ちも晴れやかになる日が多くなることを期待しています。引き続き、本校の教育活動へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



教室のカーテンを洗濯していただいたおかげで、教室が明るくなりました。御礼のことばが、遅くなり大変失礼いたしました。暑い最中、大きなカーテンの洗濯と運搬をしていただきありがとうございました。